

2013年6月24日

「震災時安全ハンドブック」を改訂し、無料配布します。

いざという時に備えて、さらに安全対策を推進します。

東京急行電鉄株式会社

当社は、昨年度発行した「震災時安全ハンドブック」(以下、ハンドブック)の内容を更新した改訂版のハンドブックを発行し、6月25日(火)から東急線各駅で無料配布します。

このハンドブックは、大規模地震が発生した際、お客さまに落ち着いて行動していただくことを目的に発行するもので、多くの方からご好評をいただいたことから、今般内容を改訂して発行します。

改訂内容は、東急線沿線の一時滞在施設や広域避難場所を掲載した一時避難・帰宅支援マップを37エリアから46エリアに拡大したこと、一時滞在施設などの情報を更新したこと、およびお客さまへのお願いについて分かりやすいイラスト解説を加えたことです。

これまで取り組んできた耐震補強工事や各種訓練などの安全対策を推進し、さらに安全・安心な東急線を目指します。

改訂版「震災時安全ハンドブック」の詳細および大規模地震に備えた東急線の取り組みは別紙のとおりです。



以 上

【別紙1】

1. 震災時安全ハンドブック

- (1)発行日 2013年6月25日(火)
- (2)配布場所 東急線各駅(世田谷線・こどもの国線の一部の駅を除く)
- (3)発行部数 20万部(カラー、全116ページ)
- (4)発行元 東京急行電鉄株式会社
- (5)地図調製 株式会社昭文社
- (6)内 容

【大規模地震発生時のお客さまへのお願いと東急線の取り組み】

お客さまへのお願いを以下の場面に応じ、イラストで解説

- ・地震が発生したとき
- ・揺れがおさまったあと
- ・運転再開まで

東急線の大規模地震に備えたさまざまな取り組み

【大規模地震発生時に役立つ知識と情報】

- 応急手当の知識
- 緊急時の情報入手方法
- 防災用品チェックリスト
- 家族の安否情報の確認 など

【東急線沿線の一時避難・帰宅支援マップ】

東急線沿線を46エリアに区分けした地図

帰宅支援ルートや帰宅支援ステーション、帰宅困難者一時滞在施設などを表記

ハンドブックの裏表紙から一時避難・帰宅支援マップが始まる構成として使い勝手を改善

詳細は別添の「震災時安全ハンドブック」をご参照ください。



写真はイメージです。

以 上

【別紙2】

「大規模地震に備えた東急線の取り組み」の概要

当社は、「安全の確保」は鉄道事業の最大かつ最重要の責務であるという認識のもと、これまでも積極的に安全対策投資を進めてきました。大規模災害などの発生も想定し、地震発生後の初期対応の再構築や減災対策の推進など、より戦略的な安全対策を策定・実施しています。

1. 継続的に取り組んでいる主な施策

< 鉄道設備の被害軽減対策 >

国土交通省の通達にもとづき災害時の復旧困難性なども考慮して、順次耐震補強工事を行っています。また、構造物だけでなく列車運行に必要な信号設備や電気設備などの耐震補強も進めています。

< 各種訓練の実施 >

自然災害だけでなく火災やテロなども想定し、駅や列車からの避難誘導訓練を実施しています。さらに、渋谷駅、目黒駅、および横浜駅などでは、警察署や消防署、他の鉄道事業者、駅周辺関係者などとも連携し、大規模地震や津波を想定した避難誘導訓練を実施しています。

2. 新たな取り組み

(1) 災害対応飲料自動販売機の設置

大規模地震などの災害が発生した際、帰宅が困難になったお客さま向けに非常食、簡易ブランケット、簡易トイレの備蓄を進め、2012年に全ての駅で備蓄を完了しました。

なお、飲料水については、全線に災害対応飲料自動販売機の設置も進めています。災害対応飲料自動販売機は、大規模地震などの災害発生時に自動販売機の設定を変更することによって、お客さまに飲料の無償提供を可能とするものです。今後、飲料メーカーの協力も得て、2013年度末までを目途に、全線に展開します。

(2) 「お知らせモニター」の増設

一部の駅で設置している「お知らせモニター」を2014年度中に全駅(こどもの国線を除く)に設置します。異常時には運行情報や振り替え輸送などの各種情報を表示するほか、通常時にも沿線情報などを表示することで、各駅でのお客さまへのご案内を強化します。



お知らせモニター設置イメージ



お知らせモニター画面イメージ

[別紙3]

「一時避難・帰宅支援マップの掲載エリア」

東急線沿線を46エリアに分けた地図で表記しています。エリアごとの掲載範囲は以下の索引図をご参照ください。



